

令和元年度 小田原市立病院運営審議会 概要

日 時 令和2年2月18日(火) 13時から14時30分まで

場 所 小田原市立病院本館2階 会議室

出席者 小田原市立病院運営審議会委員 9名

河野委員 小林委員 南委員 渡邊委員 岡本委員 丸山委員
秋山委員 岡田委員 木村委員

市立病院職員 18名

川口病院長 寺崎理事・副院長 松田副院長 加藤看護部長

蓑島病院管理局長 蕪澤病院管理局副局長

経営管理課 市川課長 武井副課長 石井副課長 横井係長

岩崎主査 小野主査 岩村主査

病院再整備課 田中課長 杉山係長

医 事 課 湯山課長 内田副課長 植田副課長

会議概要

1 開会

2 病院長あいさつ

3 委員自己紹介

4 病院職員紹介

5 会長及び副会長の選出

会長に渡邊小田原医師会会長が、副会長に木村小田原市自治会総連合会会長が決定し、それぞれ挨拶が行われた。

6 会議の傍聴について

本日の審議会の傍聴希望者はなし。

7 議事

(1) 平成30年度決算等について(資料1・追加資料)

事務局(経営管理課長)から資料1、追加資料に基づき説明した後、次のとおり質疑応答が行われた。

渡邊会長

平成30年度も黒字を維持ということで、県内一般市直営の市立病院のうち黒字なのは小田原市立病院と平塚市民病院のみという話だったが、共通する要因としては、両院とも三次救急が順調に伸びている印象である。そのような認識でよいのか。

経営管理課長

会長の認識どおりではないかと考えている。

丸山委員

医業外収益で保育室事業収益が少し減っているのだが、おそらく院内保育

件数が減っているからだと思う。病院全体として子育ての方が減っているのか、待機児童解消で全国的に保育施設を整備しているのか、外部に保育をする方が増えているのか。

経営管理課長

ご指摘の通り、収入が減っていることについては利用者数が昨年度と比べると減っている。外部に預けるということについては、当院の保育所の性質として、0歳児から3歳児までの受入が多く、3歳以上になると、友人関係や人間関係の構築等を親御さんたちは主に考えているのか、外部の認可保育所等に移る方が多いことが影響しているものと考えている。

渡邊会長

現在の保育所のキャパシティとしては何人位なのか。

経営管理課長

30人である。実際の利用者は平均して15～16人（約半分）である。

渡邊会長

分かりました。いろいろな働き方改革等があり、医業者にとっては特にこれからは医師もそのような方たちが出てくるはずなので、利用し易い状態を維持していただければと思う。

最初に説明していただいた集計表の中で、外来患者数が減っている要因をどのように考えているのか。例えば、今まで長く通われていた患者さん達を地域の診療所へ紹介しているのか、外来患者数が減っている等の統計はあるのか。

医事課

外来収益そのものは平成29年度と比較して2,800万円弱増加している状況である。逆に患者数で見ると、1日あたりで比較すると平成29年度は約1,103人に対して平成30年度は約1,036人ということで1日あたりでも約66人減となっている。これについては、当院では急性期の重症患者さんを本来診ていくというようなスタンスの中、急性期を脱し容体の安定した患者さんについては地域の医療機関へお戻しすることを続けている。このことにより、外来患者数が減っていると理解している。

渡邊会長

分かりました。そのスタンスでよいと思う。これから病院再整備に向けての1つの大きな道筋だと思っているので了解した。

(2) 市立病院経営改革プランの実施状況の点検について（資料2-1・2-2・2-3）

事務局（病院管理局副局長）から資料2-1、2-2、2-3に基づき説明した後、次のとおり質疑応答が行われた。

渡邊会長

資料2-1の説明に関しては、かなり改革としてはうまくいっており、順調に進んでいるという印象を受ける。

岡本委員

2ページの救急搬送人数だが、平成30年度が減っているというのは、建物の設備的理由により受け入れられないような状況があったのか、それとも何か運営の問題があったのかお聞かせ願いたい。

経営管理課長

平成29年度の5,863人から平成30年度が5,099人となっているが、救急搬送の内訳を見ると、軽症者の受入が減っている一方で、重症患者の受入の割合は平成29年度と比べて増加している。県西二次保健医療圏内において、医療機関の機能分担が進んだことが要因ではないかと考えている。軽症者の受入は減ったが、重傷者の受入が増え、救急搬送人数としては少し減ったという状況となっている。

建物については、平成29年度と平成30年度において変わっていないので影響はない。

渡邊会長

そうすると、機能分担はきちんとできているという点では×というのは厳しいのではないか。

経営管理課長

当初の目標としての評価対象が、人数を設定している関係で、そこが目標に達しているか否かという視点の評価となっている。そのため、評価としては×としたが、必ずしも全てが悪いということではないと思っている。

渡邊会長

今の説明から言うと、例えば救急出動の数が変わらないとすれば、二次救急を担う病院郡輪番制病院の受入状況として、軽症者が増えたかどうかというところも確認したい。南委員はどうお考えか。

南委員

市立病院では三次救急を担っているので、それを評価としてどう考えるのか。救急の場合は救急車での搬送であり、ウォークインは含んでいないのだろう。重症の方が救急車に乗って、全体から見れば軽傷の方をできるだけ救急車を使わないという方向に長期的にはなるので、軽症者の救急車の使用頻度が減ったというようなことが1つの要因であるかもしれない。もう1つは、二次輪番の中である程度救急車の受け入れ、特に三次救急に該当しないだろうと救急隊が判断するのだが、そのような方を二次救急の方でしっかりと受け入れているということもあるのかなと思う。特にこの地域の二次救急は、それぞれ得意不得意はあるのだが、かなり他の地域に比べると充実をしているのかなと思う。小田原循環器病院や西湘病院も頑張っており、かなり夜中

の緊急のカテーテル治療等も、二次の救急のところでかなり行える。しかし、多臓器に渡る場合は、どうしても三次になるので、その辺りを整理してきたということで、×にする必要はなく、むしろ三次に特化した救急に傾いてきていることであれば、収入減には繋がっていないのではと思う。数だけ言えば×かもしれないが、実質的には×とする必要はないのではと思う。

渡邊会長

収入面ではマイナスにはなっていないか。

経営管理課長

収入面ではマイナスというよりも、逆に収益アップに繋がった。

渡邊会長

南委員からお話があったように、そういう内容の裏付けまで考えるべきである。

収入面の取組としては、加算の取得ということが非常に大切なところで、同じことを行っても加算が取れるか取れないかで収益にかなり差が出る。これはしっかりできていると思う。

南委員

同じことが外来数患者の減少というところでも言える。外来患者数が減っているが外来収入は増えている。これは機能分担において好ましい方向で、外来患者数をもっと減らし、その分で救急や重症患者の入院患者を受け入れるとともに、先進医療を行っていただくことが市立病院の役割である。職員の方も分かっていると思うが、むしろ外来患者数をいかに減らすかという方向を、地域の住民の方にも周知し、この地域の中核の重病・救急・高度医療に特化して、しっかりと頑張る病院だということによろしいのではないか。

渡邊会長

先ほどのご挨拶の際に南委員からもお話があったように、私は地域調整会議で座長をやらせていただいているが、機能分化はこれからますます必要になってくる。そこをきちんと地域で分担できるような状況をこれからも進めていくこと、市立病院及び二次輪番病院郡の役割だと思うのでよろしく願いしたい。

これからは人材の確保が大切で、資料2-2の裏面にあるように、看護師の学生からの教育がある程度うまくいっているかどうか。また、医師の確保はこれから医師の働き方が進んでいく中で、勤務できる時間の制限が加わってくると、医師の増員をもっとしなくてはいけなくなるので悩みどころではあるかと思うが、その辺の支出はこれから見込まれるのではないかと思う。

前回もプロパーの職員の方を是非と要望させていただいたが、平成31年度に2名採用していただいたということなので、育成についても楽しみにしたいと思っている。

この報告書の中で修正すべき点があったか無かったかをまとめるが、今の

内容だと、評価の〇×というところで少し話があったが、そこはコメントを入れていただくということにし、評価は×だがこうだというようにしていただければ、今回は修正なしでよいのではないか。

各委員 了承

(3) 新病院建設事業について (資料3)

事務局(病院再整備課長)から資料3に基づき説明した後、次のとおり質疑応答が行われた。

渡邊会長

まず、大前提で大切なのは建設の場所である。私も市中の方々の話を伺うのだが、「どうしてこの場所なのだ」というのを未だに説明をしきれていなかったのも、今のこの内容はもっと前から市を通じて市民の方々にはきちんと周知をしていただいて、ここが最適な場所であるということを先ず理解していただかないと、次のステップに進めないと思う。その意味では、きちんと理由になっていると思うが、その辺は委員の皆さんはいかがか。

木村副会長

私は、先月の広報委員長会議で、今日の説明を受けた。地元の久野地区には、住民説明会というかたちで行っていると聞いた。あとは荻窪であるとか、谷津といったところも順次行っていく予定と聞いている。最終的には市内全域で話をさせていただくのが一番良いと思うので今後ともよろしく願いたい。

再整備係長

久野地区の説明会は、明後日(2月20日)行う予定である。市全体の説明会は3月3日(火)に行う予定である。広報紙での周知がぎりぎりになってしまうので、ホームページ等で周知したいと思っているのでよろしく願いたい。

渡邊会長

いろいろな土地のところを推している方も相当数いるので、早く決着をつけていただかないといけないと思っている。

構図や最終的な細かい設計については、今は口を出せないと思うが、道路の移設をどうするのか等の話も今までずっとあった。ここで図面はひいてくれたかたちになっているが、ご覧になって岡本委員は何か話があると思うがいかがか。

岡本委員

敷地についてだが、病院の建替えはよく郊外の広い敷地に移転することが多いのだが、その場合は大体は街の中心部の衰退に繋がっていくという例が

あるので、その点から言っても今回の現地建替えというのは理に適っているのではないかと個人的には感じている。また、道路の付け替えだが、これがないと今回の敷地での建替えは大変困難を来すと思うので、道路の付け替えの交差点の新設を受け入れていただいたうえで、是非とも新しい病院の建設ができれば良いと考えている。黄色いL字型の病院の形が出ているが、あくまでもイメージ図であって、このようなかたちで実際にできるとは決まっていけないので、その辺も周知していただきたい。

渡邊会長

あとは、車の出入りの動線だが、県道 74 号線にどうしても集中してしまうので、この辺の道路整備でうまく考えていただきたい。最近では、入口の入って来る道路と、出口の出っていく道路の路線を変えてしまうかたちで、混雑防止をすることが恐らく多いのではないかと思うので、それが本当にできないのかどうか。片面が住宅地で片面が川になっているが、そうでないと、少し移しただけでは、単純に考えると県道 74 号線の交通量は変わらず、渋滞は全然緩和できないのではないかと思っている。

岡田委員

病院の診療について、新しい病院の工事に入った際に、影響がいろいろな意味で心配されると思う。出入りに関しては工事区画をきちんと囲われて、通行等に対しては影響が出ないようにしているのだろうと思うが、工事の騒音等が病院の中に対して影響がないのか等、いろいろなことが心配される。それは当然に、事前にいろいろと検討されて結論が出たところだと思うが、今一度そういうところの点検をお願いしたい。

渡邊会長

その点はよろしくをお願いしたいと思う。現地建替えで進んでいる病院は、神奈川県内の平塚や厚木も含めて、現地建替えでうまくいっている事例がたくさんあるので、その辺の対策は大丈夫だと思う。よろしくをお願いしたい。

この場所に決めなくてはいけない、これ以上離れてはいけない理由は、医師の確保等にも係わっていくので、県西地域の問題ということである。

4 その他

事務局から、本日の会議概要について後日改めて送付するので、内容の確認をお願いした。

以上